

## 厳しい環境で奮闘する在外職員

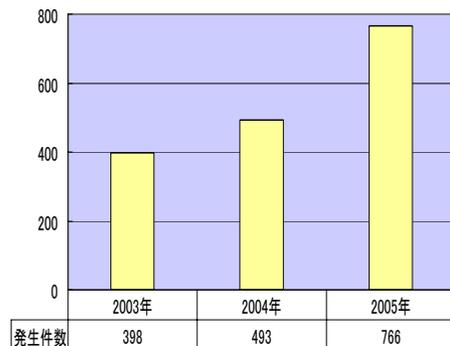
### 在外職員の6割が開発途上国勤務

⇒治安、医療・衛生、自然環境、インフラ面で多くの困難。

バクダッド:追撃砲が着弾したビル  
(大使館から150m)



事件発生件数の推移



### 劣悪な治安:命がけの任地

- ・ 在外公館及び館員に対する事件の急増  
04→05年で55%増。800件に迫る。
- ・ 足木イラク臨代大使の車両被弾(06年9月)
- ・ 車両強盗により、館員は右上腕及び右脇下(貫通)を拳銃で撃たれ、負傷した館員が子弟と共に連れ去られる。約10分後に解放。(ナイジェリア)
- ・ ハイチ、コートジボワール等、在外公館は、原則として邦人退避オペレーションが終了するまで退避せず。

カブール市内爆撃跡



### 過酷な衛生・医療環境

- ⇒現地医療体制の不備、経費の自己負担も増大
- ・ シンガポールでの検査、任地での入院の後、移送されて帰国後死亡。(スラバヤ)
- ⇒日常生活における困難
- ・ 水道が頻繁に断水したり、赤茶色の水が出る。その他、厳しい気候、大気汚染等。(多数)

